

令和3年度 第2回 八代市立図書館協議会 会議録

日時 令和4年3月25日(金)午後1時30分
場所 八代市立図書館 大集会室
出席委員 宮嶋委員、桑原委員、森下委員、徳田委員、丸吉委員、大坪委員、野瀬委員、前山委員
欠席委員 久保委員、今田委員
事務局 北岡教育長、田中課長、村上課長補佐、市村参事、野間口館長、吉野統括責任者、
岩榮せんちょう分館長、園田かがみ分館長
公開状況 公開
傍聴者 0名

- 1, 開会
- 2, 教育委員会挨拶
- 3, 会長挨拶
- 4, 議事

(1) コロナ禍における図書館の運営について(報告)

(事務局)

議事1「コロナ禍における図書館の運営について(報告)」資料をもとに説明。

- ・令和3年度は、前年度と同様に新型コロナウイルスのため臨時休館や人数制限を行って開館をしてきた。利用者数は前年度に比較し80%減少したが、貸出冊数は前年度よりも多くなっている。このことから、利用者は少人数で来館し短い時間で本をたくさん借りて家で読書を楽しむ傾向にあることがうかがえる。
- ・図書館でもご自宅で読み聞かせができるように絵本を詰め合わせた「読み聞かせセット」を作り貸出したところ好評であった。
- ・臨時休館中の電子図書の利用は通常の2倍~3倍と多い。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら図書館を運営して行きたいと考えている。

(委員)

議事にもあるが、電子図書の利用について聞きたい。

(事務局)

令和4年2月より学生さんの利用が増えている。それまでは大人の利用が多かった。

(2) 図書館運営方針に伴う令和3年度の取り組みについて(報告)

(事務局)

議事2「図書館運営方針に伴う令和3年度の取り組みについて(報告)」資料をもとに説明。

- ・令和3年9月「第5回 八代市立図書館を使った調べる学習コンクール」を開催。32作品の応募があり、うち2作品を「全国図書館を使った調べる学習コンクール」へ推薦し、1作品が八代市立図書館では初となる佳作を受賞した。

- ・令和3年8月より ADEAC「八代市立図書館デジタルライブラリ」を開始。
これは、八代市の自然と文化を紹介するもので、現在『八代の植物』をパソコンやタブレットから閲覧できる。
- ・令和4年2月より「八代市児童生徒における電子図書館及び図書館での貸出サービス」を開始。学校で配布されるタブレット端末のアカウント番号で電子図書館や図書館の本の貸出ができるサービスとなっている。電子図書館の特集では、小中高生におすすめの本や図書館の窓口では借りにくいセンシティブな内容の本を集め好評だった。今後も何度も読みたくなる資料の収集を目指していきたい。
- ・出張出前講座「本のポップづくり実践練習」
本を紹介する「ポップ」の作成講座を代陽小学校の学校司書及び教員に向けて行った。
また、オンラインで配信することで、当日参加できなかった方々とも作品の共有ができた。
- ・令和3年4月より読書支援サービスを開始。
点字図書・録音図書の郵送サービスを開始。また、朗読室のレイアウトを変更し、より利用しやすい環境づくりに努めた。
- ・「やさしい利用案内」での館内案内開始
障がいのある方や子ども、外国の方にもわかりやすいピクトグラムを多用した利用案内を使用。
 - ・バリアフリー上映会
令和4年2月、聴覚や視覚に障がいのある方にバリアフリー映画を知ってもらい、楽しんでもらう目的で、梨木香歩原作の『西の魔女が死んだ』を上映し、15名の参加があった。
- ・移動図書館の充実
移動図書館車は、令和3年10月よりコースを変更し、商業施設にも停車。あわせて、書架の見直しを行い、本を探しやすく、また多くの本を運べるよう改善し、季節の展示コーナーや図書館の案内コーナーを作るなどして利用者サービスに努めた。
- ・定期的に書架の見直しを行い、利用者の読書活動の向上を図るとともに広報としての役割を高めていきたい。
- ・図書館講座「ロボットこくりをうごかしてみよう」
令和3年10月に本館とせんちょう分館にて開催。実際にプログラミングを行い、ロボットを動かすことで子どもたちの文化創造を育むきっかけづくりとなった。
また、こくりを購入したため、令和4年度は各館で複数回講座を開催予定。
- ・地域施設・ボランティアとの連携・協働による読書推進の取り組みとして、坂田道太特別展覧会を開催。八代市名誉市民である坂田道太氏の命日（1月13日）から1か月間、坂田道太氏の生前の活躍を偲ぶ写真展、坂田家の遺品等の展示、寄贈頂いた図書の貸出を行った。
- ・自主事業への市民参加の取り組みとしては、令和4年2月にせんちょうマルシェを開催した。坂本町応援として企画した「せんちょうマルシェ」は、当初令和3年5月の開催を予定していたがコロナのため延期となり、翌年2月の開催となった。マルシェの開催について「待っていた」との声もあった。

(委員)

2022年度のマルシェについてはどう考えているか。

(事務局)

2022年度は、秋の読書週間にあわせて本館での開催を考えている。コロナの状況にもよるが、要望が多かったカフェブースも作りたい。

(委員)

坂田道太特別展覧会の反響はどうだったか。

(事務局)

非常に好評で、県外からの問い合わせも3件あり、中には、県外から新幹線に乗ってきた人もいた。また、去年は寄贈図書を1,000冊ほどいただいた。

(3) 令和4年度事業計画(案)について(提案)

(事務局) 議事3「令和4年度事業計画(案)について(提案)」資料をもとに説明。

・商用データベースの導入。

課題解決に取り組む利用者の調べる効率を上げるため、日々、最新情報が更新される商業用データベースを導入する予定。現在「JRS経営情報サービス」「デジタル伊能図」「レファコレ 児童文学ヤングアダルトサービス」が利用可能。

4月より「熊本日日新聞」を導入予定。1988年からの新聞記事が閲覧可能となるため、記事の一つ一つ探す手間を省くことができるようになる。「ポプラディア」については、令和4年3月まで利用可能。

・電子図書館について

電子図書館にて「TRC-DL マガジン」という電子雑誌の読み放題サービスの運用を令和4年4月より開始を予定している。これは100タイトル以上の雑誌が読み放題となるサービスであり、バックナンバーは、週刊誌が1年間、月刊誌が3年間、閲覧可能。手持ちのスマートフォンから閲覧できるが、最新号だけは館内のみの閲覧となっている。20アクセス同時接続可能。また、児童の読書活動普及のため、アクセス回数に制限のない人気の児童書青い鳥文庫シリーズを購入予定。

・令和4年度も第6回八代市立図書館を使った調べる学習コンクールの開催を目指す。また、ブックスタート事業や定期的なおはなし会、図書館講座を継続して実施していく。

・読書支援サービスの普及に努め、活字での読書が困難な利用者に対してアクセシブルな書籍の収集及び提供を続ける。また、障がい者サービス研修を定期的に行い、読書支援能力の向上に努める。

・英語のおはなし会の再開、外国語資料の収集及び提供を継続して行う。

・移動図書館車の書架を定期的に見直し季節に合った展示を行うほか、図書館の情報をチラシにして図書館に来館できない方々に向けた広報にも力を入れる。

・プログラミング講座「ロボットこくりをうごかしてみよう」を定期的に行い、実際にプログラミングを行い、ロボットを動かすことで子どもたちの文化創造を育むきっかけ作りとなるよう努める。

・教育機関、各種施設、市民団体と連携した展示コーナーやイベントを積極的に行い、郷土八代の魅力を発信するとともに、定期的におこなっている「図書館講座」事業を通して市民の文化

創造の機会提供に努める。

- ・子ども読書週間に合わせ「春の図書館まつり」、秋の読書週間に「図書館マルシェ」「ブックリサイクル」を開催予定。本館と分館の3館をめぐる図書館スタンプラリーを実施し、図書館の利用促進に繋げる。
- ・読書グループ連絡会を開催し、ボランティアグループと図書館の連携を強め、ボランティアグループ同士の情報を交換共有する場としたい。
- ・地域の団体との連携により展示イベントやおはなし会を開催する。また、八代市内の保育園や幼稚園、小学校への出張おはなし会を継続していく。
- ・坂田道男・道太文庫の充実と展示会を実施し、坂田家の功績と文庫を広く周知する。

(委員)

(利用者が) DL マガジンを利用するのは無料なのか？

(事務局)

無料である。

(委員)

図書館がDL マガジンに支払う料金はいくらなのか。

(事務局)

月々5万円となる。

(委員)

雑誌が100タイトル以上閲覧できるとのことだが、できれば、(今会議の)資料にDL マガジンにどんな雑誌があるのか一覧が入っているとよかったと思う。

(事務局)

雑誌の一覧についてはまだ企業から届いていないため手元にないが、届き次第、利用者へ開示する。また、バックナンバーも3年間利用できる。図書館で所蔵するタイトル以外の雑誌もあるので、今まで図書館に希望の雑誌がなかった方にもご利用いただけるのではないかと思います。

(委員)

どれがよく読まれているのかなどは、わかる仕様になっているのだろうか。

(事務局)

統計上見ることはできる。

(委員)

電子図書についてだが、その中にマンガはあるのか？

(事務局)

現在コミックはなく、伝記漫画や学習漫画となる。

(委員)

郷土八代の魅力を発信する展示などは行っているのか。

(事務局)

現在、ADEACで八代の植物について見ることができる。ADEACに利用した資料や写真などを展示出来たら面白いのではないかと考えている。また、地元の方々が講師を務める図書館講座では、講師の著作や関連本を展示しているが、とても好評なので今後も続けていきたい。

(4) 八代市児童生徒における電子図書の利活用について（報告）

（事務局）

議事4『八代市児童生徒における電子図書の利活用について（報告）』資料をもとに説明。

- ・八代市立図書館では、令和3年11月に新たに電子書籍1,100冊を購入し、約12,000冊のコンテンツを所有。
- ・電子図書の利用が前年度比3倍に伸びるなど、電子書籍への関心は高まってきている。
- ・近年、スマートフォンの普及など情報環境は大きな変化を見せており、子どもの読書環境にも影響を与えている。
- ・八代市教育委員会でも児童生徒による読書活動の利用促進を図るため、市立図書館の貸出カードと児童生徒一人ひとりに与えられているタブレット端末アカウント番号を連結し、令和4年2月より八代市立図書館の電子書籍を閲覧、貸出を開始するなど環境づくりを行った。
- ・これにより、ネット環境さえあれば、いつでもどこでも電子図書館にて本の閲覧・貸出・返却が出来、これまで本に興味のなかった児童生徒に読書機会が増えることを期待している。
- ・目下の課題は、利用者とコンテンツ数のバランスである。（コンテンツ数約12,000冊に対し、登録者数は約11,000人。現在は利用者に対してコンテンツ数が不足している）
- ・人気本への予約の集中しているため（中には2年待ちのものもある）、一斉に複数で読める対応策が必要である。

（委員）

デジタルは誰でもアクセスできると思っていたので、予約待ちの話聞き不自由なんだと思った。2年は待てない。コロナの後押しもあり、いろんなところでデジタルがすごい勢いで広まっているが、紙の本も大事にしてほしいと思う。

（委員）

電子図書で見た本を紙図書でも読んでみたいという流れができたらいいと考えている。

（事務局）

電子図書館で予約が埋まっている人気の本について、図書館で同タイトルの紙媒体の本を展示する案も出ている。

（委員）

2年先も予約が入る本というのはどんな本なのか。

（事務局）

モンスターハンターなどキャラクターブックなどである。

（委員）

電子図書について、僕自身は電子図書を年間300冊ほど読む。隙間時間で読めるのが電子のいいところ。今後、子ども達を含め電子図書の利用は拡大していくと思われるので、ぜひ電子図書の収集に力をいれていただきたい。

(5) 移動図書館「ともだち号」について（報告）

(事務局)

議事 5「移動図書館「ともだち号」について（経過報告）」資料をもとに説明。

- ・前回の協議会でも議題に上げたが、利用者が少ないステーションを廃止し、コースの見直しを行った。イオンなどの人の集まる商業施設などに新たなステーションを設置し、滞在時間をこれまでより長くした。
- ・結果、利用者と貸出冊数は増加傾向にあり、新規ステーションでの貸出は好調である。しかし、いまだ利用者は少ない。滞在時間 30 分の間に 2,000 冊の本の中から選ぶのは難しく、移動図書館車の資料に予算が掛かる。また、車両は 30 年を経過しており、安全面維持管理費の視点からも新たに車両を購入することを検討する必要がある。
これをふまえ、車両のサイズも縮小し身の丈にあった運営方法を模索する必要がある。

(委員)

BM の意味はなんですか？

(事務局)

Bookmobile（ブックモービル）の略になる。

(委員)

移動図書館車について費用対効果が上がっていないと感じている。どうにか考えてほしい。

たとえば、私は金剛に住んでいるが、金剛のステーションを利用する人は 3 人しかいない。本を読むということは文化の程度を上げるということ。

(事務局)

費用対効果をしっかり含めた運営をしていきたい。

(委員)

移動図書館車のランニングコストは？

(事務局)

30 年以上経っているので、修理維持費やガソリン代などはかかっている。

(委員)

以前聞いた際、移動図書館車のコストは大きかったように思う。これを削り、コミュニティーセンターに電子書籍が読めるタブレットを貸し出しするなどすると、利便性が上がるのではないか？

(事務局)

コミュニティーセンターには 3 カ月に 1 度ではあるが団体貸出を行っている。移動図書館車をコンパクトにして、利用を待つ人に本を届けるサービスは継続していきたい。

(委員)

タブレットの貸出は現場での管理が大変かもしれない。コミュニティーセンターの利用もご年配の方が多いためからタブレットは難しいのではないか。

(6) 本館の不明本について（報告）

(事務局)

議事 6「本館の不明本について（報告）」資料をもとに説明。

- ・今年度の蔵書点検は全館 2 月に終えた。不明本はなかなか減らず、693 冊。うち、新刊は

449冊と全体の63%を占めている。

(委員)

これはもう常習犯ではないか。

(事務局)

図書館としても「巡回中」と書いた腕章をつけ館内の見回りを強化しているが、現場を押さえられずにいる。現在は、「本が泣いています、本が迷子です」という展示を行い図書館マナーの強化を行っている。

(委員)

前から話が出ているが、やはりゲートを設置するしかないのではないか。

(委員)

ロッカーを設置し、荷物の持ち込みを禁止してみてもどうか。

(事務局)

以前、勤めていた図書館が、荷物の持ち込みを出来ないようにしていましたが、赤ちゃんの荷物を抱えたお母様方や、勉強目的で来館した方々に不評であり、中に入らずに帰ってしまう人もいました。

(委員)

不明になる本の分類は。

(事務局)

分類に関しては、3類・4類が多い。

(委員)

前もそうだったが、専門の本が抜かれているのであれば、やはり同一人物ではないか。

(委員)

毎年多くの本を盗られるのと、今お金をかけてゲートを設置するのとどちらがよいだろうか。盗られるのを仕方ないと放置してしまえば、ある特定の人が得をするだけの結果になる。図書館の本にICチップを入れなければ守れないというのも残念な話だが、図書館の本は市民全体の財産であるのだから、それを守る設備にお金をかけるのも大事ではないか。これだけの本が盗られている事実を市民が知れば驚くと思う。

(委員)

(これが公になれば) 図書館協議会の委員はなにをしているのか、と思われるではないか。

(委員)

毎回言っている。以前も、前の館長のときも言っている。

(委員)

図書館でも新刊をカウンターの前に置いたり、巡回をしたりしているけれど被害がなくなるらない。

(委員)

私たちは性善説でいるが。

(委員)

疑っていく必要もある。図書館の本は、市民が見るためにあるのであって、こんな誰か一部の人に取られていいものではない。

(委員)

この不明本の報告を議題にあげたのはなぜだろうか。意図は？

(事務局)

思いつく限りの対策をしてきたが、手詰まりであるため、知恵をお借りしたい。

(委員)

不明本について市報に載せるのはどうか。これまで、この議題はずっと協議会で出ていた案件である。そのたびに、タグをつけてゲートを設置したらいいのではないかと提案してきた。

しかし、それができないのであれば、市報に載せ市民に広く知ってもらうのがいいのではないか。

(委員)

しかし、市報では影響が大きいのではないか。図書館で（不明本について）掲示するのはどうか。

(委員)

市報に載せる際は、数年前からこういった現状があることを書けば、現館長が責められることもないのではないか。

(委員)

現在図書館で展示しているのは、「返却忘れ」を防止する意味なのでは。

(委員)

なくなった本のタイトルを公表してもいいのではないか。

(委員)

3類・4類の棚は死角にあるのだろうか？

(事務局)

カウンターの近くにある。

(委員)

やはり、職員の人がいっても抜け道はあるということだろう。

(委員)

我々は以前から満場一致でタグをつけてゲートを設置してくれと言っている。それでも動かないのはおかしいのではないか。市の意見を伺いたい。

(事務局)

耳の痛い話。ICタグについては調べている。先ほどもあったが、市報に載せるとなると、模倣する人が出てくるのではという懸念もある。あまりしたくはないが、防犯カメラを設置するなどできる対策から考えていきたい。また、委員のご意見は上に報告したい。

5, その他

第3期八代市教育振興基本計画（案）について

(事務局)

議事6「第3期八代市教育振興基本計画（案）について」資料をもとに説明。

6, 閉会